



終盤戦に希望をつなぐ内容に 嵯峨宏紀が第11戦で4位、連続入賞も継続 千代勝正は第12戦で5回目の表彰台へ!

アチーブメント全日本F3選手権第11戦&第12戦第6ラウンド)岡山国際サーキット(3.703km)

2010年、ル・ボーセモータースポーツが挑むレースカテゴリーのひとつ、全日本F3選手権の第6ラウンド／第11戦&第12戦が9月4日(土)、5日(日)の両日、岡山県・岡山国際サーキットで開催された。
擁するドライバーは、Cクラスで「DENSO・ルポーセF308」を駆る嵯峨宏紀。そしてNクラスで「BPダイシムルポーセF305」を駆る千代勝正である。
今回の舞台である岡山国際サーキットは、低中速コーナーが主体となる典型的なテクニカルコース。しっかりとトラクションのかかるマシンを、いかにドライバーがリズムカルに走らせるかが勝負の鍵となる。



予選

9月4日(土) 天候/コース状況:晴れ/ドライ

9月に入っても一向に秋の気配が訪れず、各地で真夏日が続いているが、岡山での週末も決して例外とはならなかった。またしても、強烈な暑さをもライバルとすることに。金曜日の練習走行では、嵯峨と千代はともにトップ発進に成功するが、予想以上に高い気温がアジャストの方向を見誤らせてしまう。

それでも周回を重ねることで修正にも成功し、正しい方向性もキャッチ。それぞれトップとは僅差のタイムで練習走行を終え、予選に挑むこととなった。

最初の予選を前に、嵯峨のマシンはコーナーで飛び込めるよう、フロントの空力とスプリングなどを大胆に改めていた。これが功を奏して、練習走行で出されたタイムは最初のアタックで更新でき、その後もタイムを刻み続ける。アタック4周目には、ついに1分26秒492にまで到達。5番手ながらトップとの差はコンマ3秒という、手応え十分なタイムを記すこととなった。

千代は練習走行でオーバーステアを訴えていたこともあり、予選までにマシンにはしっかり対策が施された。アウトラップに加え、2周をウォームアップに充てる。丁寧に熱をタイヤに加えたこともあって、最初のアタックラップで27秒807をマーク。千代もトップからコンマ5秒の僅差で5番手に。

続く第12戦の予選でも、嵯峨はじわりじわりとタイムを縮めていって、4周目のアタックで26秒598を記して5番手に。引き続きトップとの差はごくわずかであったものの、さらに上がった温度と攻めていったセッティング変更が、完璧にはマッチしなかったため、決勝に向けて引き続きアジャストが進められることとなった。

その傾向は、千代にも見られた。最初のアタックで28秒045をマークするも、わずかに27秒に手が届かない。それでも諦めることなく最後までチャレンジし続け、終了間際に27秒914を叩き出し6番手から決勝に挑む。



決勝レース第11戦

9月4日(土) 天候/コース状況:晴れ/ドライ

今回は練習、予選とも上位のタイムが極めて接近しているため、決勝レースで何より順位を左右する要素がスタートだ。加えて、このサーキットはコース幅が狭いため、決してオーバーテイクは容易ではないからでもある。

決勝レース第11戦では、そのスタートに嵯峨は出遅れるも、その後のリカバリーでポジションはキープすることができた。むしろ、目の前で3番手争いに加わってオープニングラップをクリアする。

今回の嵯峨は、中盤まで着実にラップタイムを縮め続けていた。それまで抱えていた課題を、自ら解き続けて周回を重ね続けていたことの何よりもの表れだと言えよう。そんな中、トップを走っていた山内英輝(ハナシマレーシング)が、ジャンピングスタートのペナルティとしてドライビングスルーを課せられる。これにより、ひとつポジションを上げて4番手に。

10周目を過ぎると予想よりもリヤのグリップダウンが早まってしまったようだ。そんな状況においても、しっかりタイムを安定させて周回を重ねることに成功。4位という結果以上に、最後まで諦めない姿勢の見られた、収穫の多いレースとなっていた。

一方、千代はしっかりスタートを決め、まずはポジションキープからレースを開始。先行するギャリー・トンプソン(KCMG)との差を詰めていき、5周目には1秒を切るまでに。レース前にセットを改めるも、オーバーステアが完全にはおさまっていなかったが、それでも千代は再度トンプソンに迫っていき、びたりと背後につける。

狭いコース幅に行く手を阻まれ、あと一歩のところまで逆転できなかったとはいえ、最後まで攻めの姿勢を絶やさず周回を重ねた千代。5位に留まるも、第12戦に向けて確実な手応えはつかめたようだ。



決勝レース第12戦

9月5日(日) 天候/コース状況:晴れ/ドライ

明けて日曜日を迎え、決勝レース第12戦を控えたスターティンググリッドにはトンボが数多く飛んでいて、その意味では秋の訪れを少しだけ感じることができた。もともと、厳しい暑さだけはそのままではあったが……。

ここではスタートを決めて、嵯峨は国本雄資(TOM'S)に迫る。序盤のうちにアレキサンドレ・インペラトリー(TODA RACING)を引き離し、安全圏内に。同時に、国本にも食らいつき、中盤にはラップタイムでも優っていたほど。

また、それまでバックストレートに続くヘアピン、そして後半のダブルヘアピンといった低速コーナーでロスがあったが、このレースではしっかり修正もでき、最大の課題をクリア。5位でのゴール以上に、今回得られた自信は大きいはず。ましてラスト2ラウンドのSUGO、オートポリスとともにテクニカルレイアウトとあって、走りリズムを要求する。右肩上がりとなっていた内容が、きつと嵯峨の肩を押すに違いない。

一方、千代はオープニングラップで一気にポジションを上げて、3番手に。スタートを決めて、まずは1コーナーでインから2台をパス。続いて三浦和樹(HFDP RACING)にアウトウッドコーナーで並び、立ち上がりでの加速にも優れたこともあってバックストレートで前に出る。このあたりの勝負強さは、まさに千代の持ち味。また変更を重ねてきたセットが、決まったことも証明していた。

レースラップも1分29秒台でコンスタントに刻み続け、また後方からのプレッシャーも感じることなく3位でフィニッシュ。チームと力を合わせてマシンを進化させ続けることができたこともあり、今季5度目の表彰台では普段以上に「千代スマイル」が輝いていた。



Driver
嵯峨宏紀
Koki SAGA
COMMENT

予選に向けてなんとか状況を好転出来たのは大きかったと思います。ただ決勝については上位との差を感じたので、少しでもその差を埋めていけるように改善していきたいです。レース数も残り少なくなってきましたが、最後まで手綱を緩めずに戦っていきます。

Driver
千代勝正
Katsumasa CHIYO
COMMENT

苦しい状況の中でも3位という成績を残せたことは、ほっとした反面、トップの2台との差は大きいとも感じました。何が違い、何が足りないかをもちと追及し、自分自身の限界まで努力を続け、残りの2大会で1つでも多くの優勝を勝ち取れるようにしていきたいと思っています。

チーム監督
坪松唯夫
Tadao TSUBOMATSU
COMMENT

嵯峨は週末を通してリヤのグリップ確保に苦労したがドライビングに大きなミスも無く、予選では非常に良いタイムを出すことが出来た。
千代もリヤのグリップ確保に苦労したが、良いスタートと一周目をアグレッシブに攻め立てたことで表彰台を獲得出来た。2人とも決勝では一発のタイムよりも、コンスタントに走れるようクルマを改良したことが良い方向に進んだ。

第11戦 決勝

Cクラス				
順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位
1	36	Rafael Suzuki	PETRONAS TEAM TOM'S	2
2	1	国本 雄資	PETRONAS TEAM TOM'S	4
3	12	関口 雄飛	ThreeBond Racing	3
4	62	嵯峨 宏紀	DENSO Team Le Beausset	5
5	2	Alexandre Inperatori	TODA RACING	6

Nクラス				
順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位
1	37	蒲生 尚弥	TOM'S SPIRIT	2
2	8	小林 崇志	HFDP RACING	1
3	7	三浦 和樹	HFDP RACING	3
4	20	Gary Thompson	ACHIEVEMENT by KCMG	4
5	63	千代 勝正	DENSO Team Le Beausset	5

第12戦 決勝

Cクラス				
順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位
1	36	Rafael Suzuki	PETRONAS TEAM TOM'S	1
2	12	関口 雄飛	ThreeBond Racing	3
3	5	山内 英輝	ハナシマレーシング	2
4	1	国本 雄資	PETRONAS TEAM TOM'S	4
5	62	嵯峨 宏紀	DENSO Team Le Beausset	5

Nクラス				
順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位
1	37	蒲生 尚弥	TOM'S SPIRIT	1
2	8	小林 崇志	HFDP RACING	2
3	63	千代 勝正	DENSO Team Le Beausset	6
4	7	三浦 和樹	HFDP RACING	4
5	23	佐藤 公哉	TEAM NOVA	3

シリーズランキング

Cクラス			
順位	車番	ドライバー	ポイント
1	1	国本 雄資	128
2	12	関口 雄飛	67
3	36	Rafael Suzuki	63
4	2	Alexandre Inperatori	39
5	62	嵯峨 宏紀	37

Nクラス			
順位	車番	ドライバー	ポイント
1	8	小林 崇志	104
2	37	蒲生 尚弥	88
3	63	千代 勝正	50
4	23	佐藤 公哉	36
5	20	Gary Thompson	25

